

～地域の国際力を地域に活かす～

益田市 都茂公民館

1 都茂公民館の概要

都茂地区は緑豊かな自然に囲まれ、地区の人口は1,079人（平成24年12月末）の小さな地域である。医療・福祉施設、小中学校、金融機関等が地区中心地に集中し、便利な反面、周辺部には自治会機能を維持することが難しい限界集落・危機的集落が存在している。

これまで、それぞれの地域が競い合うように地域づくりを行ってきたが、人口の減少、少子高齢化、若年層の地域離れ等の影響で十分活動できない状態になりつつある。また、近年特に地域の繋がりが薄くなったように感じ、伝統文化が伝わっていかないことが懸念される。

都茂地区で生活する外国人世帯は約10世帯で、そのほとんどが小中学校に子どもがいる世代である。



益田市景観賞受賞地区：金谷地区



都茂小学校：田植体験

2 事業の概要

（1）事業のねらい

これまで醸成してきた地域力を活かし、地区に住む外国人の方と陶芸を通して関わりを深めていくとともに、学校・家庭・地域の連携事業に参加を促し、外国人・日本人に関わらず災害時等において地域住民として支え合える関係性を構築したい。

（2）具体的な取組

ア 陶芸機材の購入

幼児から高齢者まで幅広い年齢層の活動を容易にするため、延べ板製作機等の機材を購入した。



購入したタタラ機で制作活動



陶芸作品例

イ 学校・家庭・地域の連携事業への取組

都茂地区では学校支援地域本部事業を柱とした、益田市教育協働化推進事業（つろうて子育て）に対し積極的に取り組んでいる。地域住民が学校教育活動に関わることによって、地域の文化・伝統・歴史を子どもたちに伝え、「美都が好き」「一度は地域外に出て生活しても生まれ育った故郷に戻ってきたい」と思う子どもを育てることを目標として推進している。

この事業の取組の一つとして、都茂小や美都中の「総合的な学習の時間」の陶芸体験開催に併せ、保護者や地域の方に参加を呼びかけるとともに、地域に住む外国人の参加を意図的に呼びかけた。



美都中学校：陶芸体験



ふるまい向上プロジェクト活動

また、今年度の特徴的な取組として、平成 25 年度都茂小学校へ統合する二川小学校と合同で通学合宿（3泊4日）を開催した。

二川地区から通学することで、初めてのバス通学を経験したり、お互いの地域を知ったりすることができた。

この通学合宿に参加する保護者の外国の方同士が、事前の説明会などで知り合うきっかけともなった。



都茂・二川小児童の交流



二川地区からのバス通学

ウ 地域住民参加型の組織づくり

今年度、「新しいコミュニティ設立支援事業」（市単独事業）に手を挙げ、地域の課題を探る取組を始めた。都茂地区の将来を担っていく若者たちが、新しいコミュニティ組織を設立していく中に国際交流を意識した活動の企画を促し、メンバーに外国の方の参加を求めた。

エ 近隣公民館との連携

都茂公民館においても地域の少子高齢化が進み、単独ではこれまでのような大掛かりな活動はできなくなっている。国道 191 号線沿いの 6 地区の公民館が連携する、191 交流協議会“輝”において『ワールドキャンパス益田』を共同開催し、世界各国の若者のホームスティ先として本地域の韓国家庭が意欲的に取り組んだ。



6 公民館合同による地域課題解決講演会



世界の若者と素麺流しで交流

3 事業の成果と課題

陶芸機材の購入によって、公民館主催の陶芸教室に、在住外国人を含めた幼児から高齢者まで、幅広い年齢層の活動が可能となった。また、学校教育支援や家庭教育支援にも広がりを見せてきている。



教育協働化・ふるまい向上：民家での校外学習

191 交流協議会“輝”において『ワールドキャンパス益田』を共同開催し、外国の若者がホームステイすることによって、地域に居住する外国人が活躍できる機会となった。陶芸を中心とした文化体験や衣食住体験を学ぶフィールドを、住民として準備することによって今までにない絆ができたように思う。ホームステイをした外国人が、地域興しに活用しようとしている約 1,100 年の歴史を持つ都茂丸山鉾山に興味を示したり、「みと自然の森」での竹によるもの作り、日本の食文化である「おむすび作り」体験にも非常に興味を示したりしていた。また、彼らからは、郷土の秦佐八郎博士がヨーロッパの地では偉人として学校教育の中で教えられていることも分かった。こうしたことは、工夫次第で地元の外国人との交流活動に大いに役立てられることも理解できた。

今後の課題として、ボランティアハウス（放課後子ども教室）に加入している児童に外国人世帯の子どもがいないことが分かったので、子どもを通じた交流を広げるためにも、制度の周知と参加を呼び掛けたい。

4 今後の方向性

2 年目としての来年度は、しまね国際センターの翻訳等の支援を受け、多言語アンケートを実施し、都茂地区に住む外国人の要望と課題を整理したい。外国人の生活支援体制づくりとして、日本語教室の開催、生活情報の提供相談窓口や多言語マップづくりを公民館事業として行い、特に災害時のサポートとして多言語ハザードマップを作成したい。

そして、住民参加型の交流活動として、公民館主催の伝統・文化・習慣講座への参加を促すとともに、学校・家庭・地域連携による地域行事での交流活動や多国籍料理づくりに取り組んでいきたい。